

日ラグ協発第 12-043 号

平成 24 年 4 月 20 日

関東ラグビーフットボール協会
理事長 水谷 眞 様
関西ラグビーフットボール協会
理事長 田仲 功一 様
九州ラグビーフットボール協会
理事長 日野 康英 様

(財)日本ラグビーフットボール協会
専務理事 矢部 達三



「競技規則第 22 条」についてのルーリング 2012-1 (競技規則の確認)

(通達)

拝啓、平素は日本ラグビーの普及発展につきまして多大なるご尽力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて、競技規則につきまして、IRB よりこのほど、下記の通りルーリングに関する通達が出されました。日本協会でもこれを受け、ここに通知いたします。貴協会におかれましても加盟都道府県協会、および、各チームに周知徹底いただけますようよろしくお願い申し上げます。

敬具

記

フランス協会からのルーリング要請

前に蹴られたボールがゴールラインまで飛び、まだ空中にある間に、プレーヤーが手を触れ、グラウンディングした。しかし、グラウンディングする前に、このプレーヤーの足がタッチに出ていた。

以下について、確認したい：

- ・ 競技規則 22.4 (g)が適用されるのはタッチダウンされる前にすでに地面にあったボールだけか、あるいは、上記に記したようなその他の状況にも適用されるのかどうか。
- ・ 上記に記したような状況は、「ボールを持っている」とみなされるのか。

ラグビー委員会の指定メンバーによるルーリング:

競技規則第 19 条または競技規則 22.4 (g)は、下記のように適用される:

- ・ プレーヤーがボールを持っていて、相手側のインゴールエリアへ入ったときに、そのプレーヤーの足がタッチインゴールラインに触れていた、または、タッチインゴールラインを越えていた場合、そのプレーヤーはタッチインゴールにいることになり、トライは与えられない。競技規則第 19 条「タッチおよびラインアウト」の定義より。
- ・ プレーヤーがボールを持っていない場合、競技規則 22.4(g)「タッチまたはタッチインゴールにいるプレーヤー」が適用される。
攻撃側プレーヤーがタッチまたはタッチインゴールにあっても、相手側インゴールにあるボールをグラウンディングすることによりトライが得られる。ただし自分がボールを持っている場合を除く。

指定メンバーにより、以下のことを確認する:

1. トライは与えられるべきではない。
2. ボールが最初にプレーされたとき空中にあったため、このプレーヤーは、ボールを持っているとみなされる。
3. 競技規則 22.4 (g)は、ボールが地面にある場合にのみ、適用される。

以上